

初めて浜松駅で下車。少し歩いて遠州鉄道に乗り換えた。八月の暑い日だった。病気の友人を見舞うため、大阪から駆けつけ、医大病院にゆくのだ。

友人夫婦は、お互い車椅子姿だった。

ふたりは主治医に懇願して外泊許可をとっていた。

その日は、天竜川の花火大会だった。私の運転で天竜川の川辺に車を止め、四人はシートを敷いて寝転んだ。

私は、炸裂する花火に見入っていた。ふと横を見ると、彼の頬を涙が伝っていた。これが最後かとイヤな予感がした。なぜか男二人は口数が少なくなった。翌日、病院への帰り道、うなぎ屋に立ち寄る。びっくりするほど旨かった。彼は店の主かと思うほど浜松うなぎを自慢した。すぐ近くの徳川家康の城趾を案内するという。不自由な足を庇いながら、夫婦が助け合って坂道を登る。後姿を眺め、涙が止まらない。一度の訪れで浜松大好きになった。もう一度行きたい。たとえば彼等がすでに居なくとも。きつと行つてうなぎを食うぞ。思っただけで少し歩けそうな気がしてきた。